



遙かなる光 *A Different Light* (1978)
エリザベス・A・リン
(野口幸男訳)
早川書房(文庫)
(6/15刊・¥340)

エリザベス・リンが、七八年に出した処女長篇である。

不治の病に冒された画家ジムソンの、死を賭した旅立ち——旧友との出会い——未知の惑星への冒険——精神波を増幅する仮面などなど、というスペース・オペラ風の物語。

しかし、この作品には、ディレーニイ(さらに遡れば、コードウェイナー・スミス)らに見られる、きらびやかで、現実とは異質な雰囲気がある。現代スペース・オペラの、一つの特徴である。それは、画家ジムソン、スター・キャプテンのラッセル、テレバスのイサオ、パイロットのレイコ(著者の好みもあってか、日系の名前が多い)等、キャラクターの魅力にも負っている。実際、登場人物はいやに多彩だ。裏腹に、最初の長篇にありがちな、一貫性のなさ、主人公の心理はこんなものかと思わせるところがある。ただ、この作者の持ち味である、雰囲気は、もう色濃く漂っている。

エリザベス・リンは、七〇年代末にデビューした、(本年三十五歳の)女流作家——まずは最新のアメリカSF界を代表する、イキ